

大日本コンサル

# 新ブランドの技術確立

## コア分野でシェア拡大

大日本コンサルタントは8月31日、2016年6月期の経営方針を明らかにした。「市場環境の変化に対応する力と体制を整える」「会社の信頼性をさらに高める」「社内インフラを改良・整備する」の3点を柱に掲げた。市場環境の変化への対応に当たっては、コア分野での新たなブランド技術確立によるシェア拡大、新規分野の育成強化、海外事業体制の整備・強化に取り組む。

地方創生計画、国土形成計画などで新たなブランド技術確立し、シェアの拡大を図っていく。新規分野は、マネジメント、港湾関連、再生可能エネルギー関連業務などを育成強化していく。海外事業体制は、売上高10億円以上の規模を目指す。人材育成、社内・社外組織との連携体制の整備・強化を図る。

信頼性の向上は、品質担当部長の配置により品質マネジメント・システムを運用強化する。「働き方改革運動」推進による内部生産性の向上や、子会社・協力会社の育成・強化による外部生産力の拡大・強化などにより、「ゆとり」と「利益」を創出していく。

社内インフラの改良・整備は、基幹システムの改築を継続するほか、情報セキュリティを強化する。また、人材開発制度の運用と継続的改善、法律の改正や労働環境の変化に応じた各種規則、制度の見直しを推し進める。

このほか、来期（17年6月期）からスタートする第11次中期経営計画について、高久晃社長は、「現在検討している段階であるが、大きな路線の変更は考えていない」としながらも、子会社の拡大や協力会社との連携により、「連結として全体の規模とすれば、ひとまわり、ふたまわりは大きくしたい」との方針を示した。

2015年9月1日 掲載 建設通信新聞